

## スポーツの指導

教育学部体育教育学講座 江刺 幸政

一般的に運動能力を考える時、運動者の個人的資質や努力こそが、彼の運動能力を決定しているように考えることが多い。しかし、スポーツ技術の発展を歴史的・社会的に眺めるならば、スポーツ選手の運動能力を規定しているのは、施設・用具や指導者あるいは学習プログラムなどの社会的・物質的諸条件である。このことは、スポーツの指導やスポーツ教材を考える時の基本的な視点になる。

もしも  
リフトがなかったら

スキーを例にとって考えてみよう。今日、スキー人口は拡大の一途をたどり、選手達ばかりでなく、一般のスキーヤーの技術水準も、一昔前に比べれば驚くほど高いものがある。このような状況を生み出している原因を、運動者の個人的資質や努力に求めることはできないのである。さてそれではこの場合、施設・用具や指導者などの社会的・物質的諸条件は、スキーの能力発達とどの様な関係をもっているのだろうか。

もしも、スキー場までの交通の便やスキー場のリフトあるいは技能程度に応じたゲレンデ等が今日ほど整備されていなかったら、ま

た技能レベルに合わせることの出来る指導者やプログラムが準備されていなかったらどうであろうか。スキーヤーは、自分で現地まで行き、苦労して登り、技術的なことから安全面あるいは用具の調達まで、自分で何から何まで工夫しなければならぬ。この場合、スキーの練習以外に費やされる努力は莫大である。それらの努力の軽減と、スキーの練習に必要なものの確保こそ、社会的・物質的諸条件整備の内容である。

スキーを例にとって述べたが、このような事情はどの様なスポーツ種目でも同じである。ある一定の時間内出来ることは限られている。それ故、その時間内に、「必要とされる」技能発達のための運動学習の量（時間）と質（内容）がどの程度確保されるのか、運動

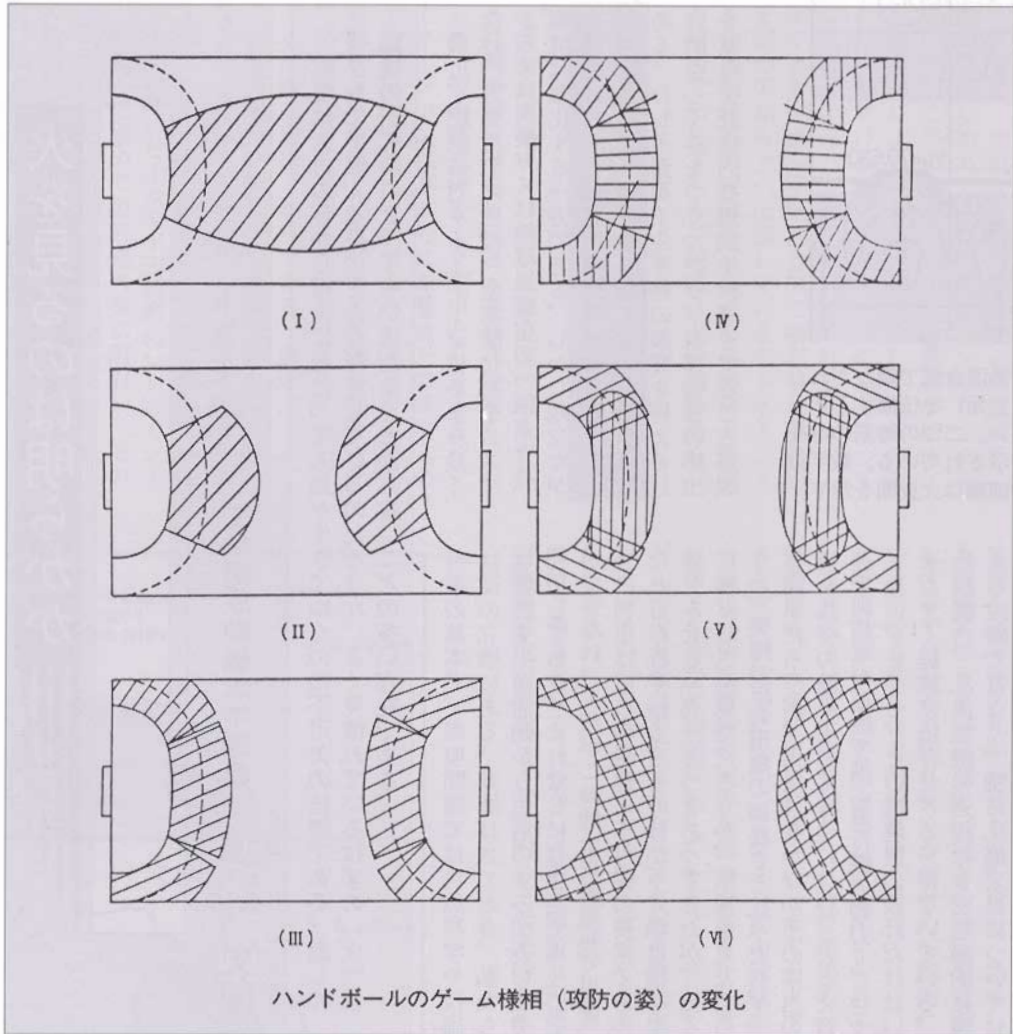
能力発達を規定するのである。社会的・物質的諸条件の整備とは、必要とされる運動能力の発達にとって本質的でない条件の排除と、本質的な条件の準備を意味している。

試合の内容が  
変わってしまう

図で示したのは、ハンドボールのゲーム様相である。主として、何処で・どの様に・どんな技術を用いて攻防が行われるかを、発展的に示している。高校生の授業だと、三年間三十時間から四十五時間で第IV段階が出現すれば成功といわねばならない。しかし、ハーフコートでゲームを行うと二時間目位からこのIV段階の様相になる。したがって、ハーフコートでの攻防を中心とした学習では、それ以後の段階の内容を盛り込めることになる。このような現象が生じるのは、コートの大さが制限されるため、攻防の切り替えに必要な往復（約二十五分のゲームで2km程度）が必要でなくなり、その分だけチームとしての攻防に向けられるからである。

## 様相発達への着目

このように、特定のスポーツ種目における行為の発展過程を、特徴的な現象や様相をもつ段階の発展として捉え、運動技術の発展過



程や技能発達過程の必然性を説明しようとする研究を様相発達研究と呼ぶ。一般的によく知られている球技種目における攻撃・防衛システムの変遷や運動経過形態による技能評価基準の研究等もこの研究方法に含まれる。この研究方法は、対象とする発達過程のスケールを大きくとれば運動技術史研究に、また短くとれば運動技能や運動能力の発達研究につながってくる。

### スポーツ教材の研究

スポーツ技術の体系は、膨大な学習量を前提とした運動能力の発達を基準として体系化されているため、教科教育にそのまま持ち込むことはできない。私達が研究しているのは、極めて限られた時間内で生徒達が当該のスポーツで獲得すべき運動能力は何か、そしてそのための本質的な条件は何か、それはどの様にして可能なかということである。

そのためには、技術発展の必然性とその条件を明らかにすること、そして合目的に再構成する条件を説明することが不可欠となる。様相発達研究は、このような運動技術史と技能発達を結びつける課題に答える、有力な研究方法であり、運動教材の構成理論を支えるものである。